

HDS028-02

会場:302

時間:5月23日 16:39-16:54

## 地震本部が作成・公表する地震動予測地図について The National Seismic Hazard Maps for Japan published by The Headquarter for Earthquake Research Promotion (HERP)

北川 貞之<sup>1\*</sup>

Sadayuki Kitagawa<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 文部科学省

<sup>1</sup> MEXT

地震調査研究本部（以下、地震本部）は、1995年に起こった阪神淡路大震災で浮き彫りにされた課題を受け、地震対策特別措置法に基づいて設立された。事務局は現在文部科学省に設置されている。地震本部は地震に関する調査研究の成果が、地震防災対策の強化、特に地震による被害の軽減に資するよう、地震調査研究を推進している。その目標を達成するため、活断層の長期評価、海溝型地震の長期評価、それらの地震による強震動の評価、地震によるハザードを示した地震動予測地図の作成を行っている。

地震動予測地図は、一定の期間内に強い揺れに見舞われる可能性が各地でどの程度あるかあるいは、日本各地が将来発生する地震によってどの程度揺れに見舞われるか、という予測情報を地図上に取りまとめたものであり、「確率的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」の二種類の地図で構成されている。

全国を網羅した地図としては、2005年に「全国を概観した地震動予測地図」として発行され、その後も、新しく評価された長期評価の結果と、確率値の基準となる日の更新による、確率値の更新を行うため、毎年更新してきた。

また2009年には、それまでの地図を大幅に改訂し、「全国地震動予測地図」として公表した。以前は1kmのメッシュで作成していたものを、微地形区分に基づく表層地盤による増幅を考慮して250mと細かくし、地震動を評価している。さらに、確率論的地震動予測地図について、震源断層が特定できる海溝型地震、震源断層を特定できない海溝型地震、陸域活断層による地震の3つのカテゴリーに分類し、それぞれの地震による揺れに見舞われる確率を示している。震源断層を特定した地震動予測地図に関しては、以前は限られた断層のみで地震動の予測を計算されていたが、今回の改訂により、評価されたすべての主要活断層により発生が想定される地震について、予測される震度の詳細な分布地図を作成した。

また、2009年には、地震本部は長周期地震動地図（試作版）と呼ばれる別のタイプの震源断層を特定した地震動予測地図を発表した。想定東海、東南海、宮城県沖地震の3つの地震について、1940年以降発生した地震による揺れを再現することを目標として、周期5秒、7秒、10秒の速度応答スペクトル、長周期地震動の最大速度、および長周期地震動の持続時間を地図で表現している。

本講演では、これらの取組について紹介するとともに、今後の方針について述べる。

キーワード: 地震調査研究本部, 全国地震動予測地図, 新総合基本施策, 地震発生の長期評価

Keywords: HERP, National Seismic Hazard Maps, New Promotion of Earthquake Research, evaluation of long-term earthquake occurrence